

(西暦) 2026年 1月 1日

難聴に対する検査や治療を行うため当院に入院・通院されていた患者さんの診療情報 を用いた臨床研究についてのお知らせ

はじめに

【研究の意義、目的を記載】

難聴は耳鼻咽喉科診療において最も頻繁に遭遇する症候の一つであり、感音難聴、伝音難聴、混合性難聴に大別されます。原因は先天性から後天性まで多岐にわたり、急性発症例では迅速な診断と治療が求められる一方、慢性経過例では生活の質（QOL）や社会参加への影響が問題となります。近年は診療ガイドラインや手引きが整備され、標準的診療の枠組みが明確化されています。

難聴は障害部位により外耳・中耳由来の伝音難聴、内耳・聴神経由来の感音難聴、両者を併せ持つ混合性難聴に分類されます。診断には純音聴力検査、語音聴力検査、インピーダンス検査を基本とし、必要に応じてABR、ASSR、OAE、画像検査などを組み合わせます。

日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会による**聴覚管理マニュアル**は、外来診療における検査の選択や経過観察の考え方を整理した実践的手引きです。

急性感音難聴には、突発性難聴、急性低音障害型感音難聴、音響外傷などが含まれる。日本聴覚医学会による**急性感音難聴診療の手引き**では、鑑別診断、治療開始時期、ステロイド治療の位置づけなどが示されています。

音響外傷については、MRI検査時の騒音による急性音響性難聴の報告があり、検査環境における安全対策の重要性が指摘されています。また、騒音性難聴全般については総説的報告があり、予防の重要性が強調されています。

小児難聴は言語発達や社会性に大きな影響を及ぼすため、早期発見・早期介入が重要である。新生児聴覚スクリーニング後の診療フローや療育連携については、**小児難聴診療の手引き**に詳細に示されています。原因としては遺伝性難聴が一定割合を占めており、遺伝学的検査や家族への説明を含めた包括的診療が求められます。

加齢性難聴は高齢者に多く、コミュニケーション障害のみならず、フレイルや認知機能低下との関連が注目されています。加齢性難聴の病態や対応については、老年医学的観点からの総説が報告されており、補聴器や人工聴覚器の積極的活用が推奨されています。

薬剤性難聴の代表例として、シスプラチンによる内耳障害が知られています。近年は、薬剤性難聴の予防を目的とした基礎的・臨床的研究も進められています。

高度～重度難聴例に対しては、人工内耳や残存聴力活用型人工内耳（EAS）が有効な治療選択肢となります。小児および成人、一側性高度難聴に対する適応基準が日本耳科学会から提示されており、適切な症例選択が重要であります。

難聴は多様な病態を含む症候群であり、原因・経過・年齢に応じた個別化医療が求められます。ガイドラインや手引きに基づいた標準的診療を基盤としつつ、補聴器や人工内耳を含めた聴覚リハビリテーションを適切に組み合わせることで、患者のQOL向上が期待されます。今後も診断技術や治療手段の進歩により、難聴診療のさらなる発展が望まれます。

耳鼻咽喉科領域の難聴の診療を行うためには、確実な診断と適確な治療方針の決定が不可欠です。当科で検査や治療を行った難聴症例の患者データベースを構築し、臨床像および治療成績を統計的に集積分析し、今後の治療へ反映させる必要があります。

対象

西暦2013年1月1日より2025年12月31日までの間に、【耳鼻咽喉科】にて【難聴に対して検査や治療を行う】ため【入院、通院】し、【診療、手術、検査、リハビリテーションなど】を受けた方。

【試料・診療情報等の項目】

試料：ありません。

診療情報等：① 背景情報：現病歴、家族歴、既往歴、生活歴、年齢、性別、身長、体重、臨床所見、家族からの問診情報 ② 初診時および治療後の中耳内視鏡検査、聴力検査、DPOAE、ティンパノメトリー ③ 治療内容とその効果 ④ 中耳内視鏡・CT・MRI の画像所見 ⑤ 血液検査

【試料/情報の他の研究機関への提供および提供方法】

本研究で使用される診療情報等は他機関への提供は行いません。

本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨、研究責任者までご連絡をお願いします。

研究課題名 難聴に関する調査研究

研究内容

カルテから下記の情報を取得します。① 背景情報：現病歴、家族歴、既往歴、生活歴、年齢、性別、身長、体重、臨床所見、家族からの問診情報 ② 初診時および難聴治療後の血液検査・エコー検査・CT検査・聴力検査・DPOAE・ABR ③ 治療内容とその効果 ④ 中耳内視鏡検査・CT・MRI・エコー検査の画像所見 ⑤ 血液検査

個人情報の管理について

- 1) 本研究で取り扱う患者さんの個人情報は、氏名と患者番号のみです。その他の個人情報（住所、電話番号など）は一切取り扱いません。
- 2) 本研究で取り扱う患者さんの診療情報は、個人情報をすべて削除し、第三者にはどなたのものかわからないデータ（匿名化データ）として使用します。
- 3) 患者さんの個人情報と匿名化データを結びつける情報（連結情報）は、本研究の個人情報管理者が研究終了まで厳重に管理し、研究の実施に必要な場合のみに参照します。また、研究終了時に完全に抹消します。
- 4) なお連結情報は当院内のみで管理し、他の共同研究機関等には一切公開いたしません。

研究期間

病院長承認日 ～ 2028年 3月 31日（予定）

医学上の貢献

本研究により被験者となった患者さんが直接受け取ることができる利益はありません。しかし、本研究により音声障害の原因と治療効果が明らかになる事により、新たな知見が得られることで科学への貢献が為され、社会への貢献が達成されると考えられます。

研究実施機関

国家公務員共済組合連合会 浜の町病院【耳鼻咽喉科】

【当院での研究責任者】所属 耳鼻咽喉科 職名 部長 氏名 田浦政彦

【利用する者の範囲】

所属 耳鼻咽喉科 職名 氏名 渡邊真理

所属 耳鼻咽喉科 職名 氏名 的場信広

お問い合わせ先

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

氏名 田浦政彦

所属 耳鼻咽喉科

連絡先 092-721-0831

対応可能時間：平日 9：00 から 17：00 まで

以上